

## 第31回 「芳賀・宇都宮基幹公共交通検討委員会」結果概要

○日 時 令和3年12月24日（金）午前10時30分～午前11時20分

○場 所 栃木県総合文化センター 3階 第1会議室

○内 容 1 開 会

2 あいさつ（森本委員長）

3 議 題

- ・ LRTの整備効果項目の整理について
- ・ LRTの整備効果の評価手法について

4 そ の 他

5 閉 会

### 【主な発言の要旨】

#### 3 議題

(1) LRTの整備効果項目の整理について・・・資料1

(2) LRTの整備効果の評価手法について・・・資料2

### 【委員長】

- ・ 資料について、事務局より説明をお願いします。

### 【事務局】

- ・ 資料1 説明
- ・ 資料2 説明

### 【委員長】

- ・ 事務局からは以上であるが、皆様からご意見をいただく前に、「LRT整備効果検討部会」の部会長である長田委員から補足説明をお願いします。

### 【長田委員】

- ・ 「LRT事業」については、富山などの先進事例はあるものの、「芳賀・宇都宮LRT事業」については、全線新設ということで、全国から非常に注目されている。
- ・ その多岐にわたる効果については、もう既に出てきているのではないかと思われるが、整備効果を定量的・定性的に検証し、分かりやすく住民の皆様が発信していくことは、非常に難しいが、一方で、大変重要な取組であると思っている。
- ・ また、効果が既に出てきているという話をさせていただいたが、もう既に動いているものに関しては、定量的に把握できるもの、定性的に把握できるもの、取り逃しな

く、開業した後も効果がしっかり出たと説明できるようにしていきたい。

- ・ 今回、「L R Tの整備効果項目」及び「L R Tの整備効果の評価手法」について、検討状況を事務局よりご説明させていただいたところであり、今後、皆様にご意見をいただきながら、引き続き、整備効果の適切な評価について、検討を進めてまいりたいと考えているので、よろしく願います。

#### 【委員長】

- ・ 本日欠席の望月委員からコメントをいただいているので、事務局から紹介をお願いします。

#### 【事務局】

- ・ 望月委員からいただいているコメントを紹介させていただく。
- ・ L R Tの期待される効果の項目について、様々な視点から幅広く抽出・整理することは賛成である。
- ・ 整備効果について、市民等に対し、分かりやすく、且つ、説明力を持って示していくためには、その効果を可能な限り定量化して示していくことが必要であると考えている。
- ・ L R T沿線の地域拠点の拠点化が促進されるなど、N C Cの形成に向けたまちづくりが進んでいることを検証していくためには、市全域とL R T沿線の効果の発現状況等を比較分析する必要があると考える。

#### 【委員長】

- ・ それでは、皆様からご意見を願います。

#### 【行政アドバイザー】

- ・ まちづくりの観点から、L R Tを整備することにより、足の不自由な方やベビーカーユーザー、車いす利用者などが移動しやすくなり、移動に対する「心理的ハードル」が下がると考える。
- ・ これらの方々の効果について、「住民生活」などで特出して見ていくとよいのではないかと。
- ・ 私個人の話となるが、段差が多いと外出のハードルが高く、ベビーカーをたたまなければいけないことや、バスなどが混んでいる場合、乗車拒否されるのではという心配があるなど、「心理的ハードル」を感じているので、L R Tがあれば住みやすくなるのではないかと期待しており、それらの効果を見てほしい。

### 【事務局】

- ・ L R Tについては、段差が少なく車両に乗り降りがしやすいことが特徴の1つである。
- ・ 車いす利用者やベビーカーユーザーなどの方々に対しても、段差がなく車両に乗り降りがしやすいL R Tを利用させていただくことで、「外出機会の増加」などの効果が見込まれると考えている。
- ・ その効果の把握の中で、車いす利用者やベビーカーユーザー等の行動の変化などについても把握していきたいと考えている。
- ・ また、「心理的ハードル」が低下することによる、「満足度の向上」などについては、今後、引き続き、部会等で把握手法等について検討させていただく。

### 【委員長】

- ・ 項目としては「外出機会の増加」のほか、「歩く機会の増加」や「交流機会の増加」も挙げられるかもしれない。
- ・ ぜひ丁寧に見ていただいて、一般の方々や障がいを持たれている方、高齢者の方などの生活がどういった変化をしていくのか、ご検討いただきたいと思う。

### 【大森委員】

- ・ 今回の整備効果項目の整理については、様々な視点から幅広く抽出しており、また、「L R T利用者」と「社会全体」に効果の発現対象が分けられているなど、よく整理されていると思う。
- ・ バリアフリーの観点についても、どこかに入れていいのではないかと考える。
- ・ **別紙1**についてであるが、L R T利用者の部分で「通学環境の満足度の向上」、「通勤環境の満足度の向上」の項目があるが、買い物や通院などの移動目的もあることから、それらについても把握してもよいと考える。
- ・ また、「道路交通事故の減少」とあり、効果項目としては良いと思うが、もしかしたら、L R Tと車の事故が発生するかもしれない。
- ・ それに関連してであるが、公共事業は「正の効果」は非常に多くあるが、多少不便になってしまう方がいるなど「負の効果」もある。
- ・ 今より不便になってしまう方がもしかしたらいるかもしれないが、それ以上に便利になる方が多く、社会全体として望ましいため、このような事業をしているということを示すため、「正の効果」だけでなく「負の効果」もどこかで示したほうがよいと考える。

### 【委員長】

- ・ L R Tの整備により、L R T利用者の時間短縮等の効果などが見込まれるが、おそらく、増加があるということは減少もあり、ある方にとっては増加でなく減少、向上ではなく低下という客観的な話は重要であるため、検討してほしい。

### 【事務局】

- ・ 今後、整備効果を評価していくにあたり、出来るだけ客観的な観点をもって評価をしていきたいと考えている。

### 【委員長】

- ・ 整備効果のプラスの効果、マイナスの効果をどちらも包み隠さず計測をして、正しく市民・町民の方々などにお伝えしていただくということを、どこかに明記しておくと思う。

### 【中尾委員】

- ・ LRTが導入されるにあたって、地域社会にこのように大きなたくさんの影響を与えるのかということに驚いた。
- ・ なんとしてでもLRTを開業させ、多くの県民、市民、町民の方々に利用していただき、便利なまちになったと言われるようなLRTを目指したいと考えている。
- ・ **資料2**下段についてであるが、定量的な評価の記載について、効果を数値化して示せる定量的な指標を設定し、効果をわかりやすく定量化していくということだが、**別紙1**に整理されている、多くの項目を数値化していくということは、場合によっては大変なものが出てくると思う。
- ・ 具体的に数値化するための手法は何か考えているのか。

### 【事務局】

- ・ 今後、アンケートやビッグデータを活用するなど、様々な手法で評価していきたいと考えている。
- ・ 定量的な評価の数値化について、例えば「住民生活」の「歩く機会の増加」については、歩く機会が増加することにより、健康が増進されることから、医療費の削減につながるのではないかと考えている。
- ・ また、「地域経済」の「産業経済の活性化」では、既に設備投資の増加などが見受けられたため、設備投資額の推移の数値化などができるのではないかと考えている。

### 【岸井委員】

- ・ 評価項目については、多様に抽出されているが、相対的に見ないと評価が難しいものの中には入っている。開業まで時間があまりないが、いわゆるLRTがない時の状態というものを、どのように評価できるのかということについては、よく検討いただきたい。
- ・ また、コロナの影響と、そうではない部分を分けるのはなかなか難しいが、何らかの形でコロナの影響をなるべく外した形で評価できるような手法を検討しなければなら

らないと考える。

- 例えば2018年に、関東地方で10年に1回のパーソントリップ調査を広く行ったが、外出率が下がってきている。
- これまでは高齢者や女性の外出率が上がっていたが、今回は各世代において外出率が下がった。
- 特に高齢者で公共交通を使い難い方、自分で車の運転が困難な方について、外出率が一段と低い。
- 外出率の全体平均は約76.6%、高齢者は6割から7割の外出率であるが、そういう中で公共交通も自動車も使えない高齢者は4割程度しか外出しておらず心配な状況である。
- こういう数字がLRTの開業前後において、把握できていることが大事だと思う。
- 単なる全体の平均値だと、従前とそんなに変わらないということになる可能性があるが、ハンディキャップのある方や高齢者、車を持っていない方などにとって、LRTなどの公共交通が入ってくると、その方の行動がかなり変わり、これは富山などでもよく言われていることである。
- 相対的に評価せざるを得ない項目については、なるべく早めにコロナの影響を外す形で評価できればよいと考える。
- 沖縄（モノレール）の例でも、当初、鉄軌道の無かった地域で利用されるのか心配されていたが、結果的には多くの方が利用しており、駅の周辺の土地利用の変化もかなり激しく起きている。
- このような効果をどのタイミングで測るかという点、項目によってはすぐ発現するものもある一方、少し時間がかかって発現するものもあるということを考慮しないと、評価を間違える可能性があり、1年だけではなく、5年など長期のスパンで見ないといけないものもあると思うので、指標の整理も一緒に検討いただければと思う。

#### 【事務局】

- ご指摘いただいた視点は重要であると捉えている。
- 定量的な評価にあたって、例えば、今の値がコロナの影響が出ているとすれば、少し遡ったところで分析し、そこにコロナの影響が加わった状況、そしてその後の状況など、3段階での把握・分析を行うなどといった工夫が必要だと思う。
- 数字の基本的な取り方などについては、部会でご意見を伺いながら検討を進めていきたい。
- また、効果をどの時間軸で切って見ていくのかについては、色々な示し方もあると思うので、併せて、部会でご意見を伺いながら検討を進めていきたい。

### 【委員長】

- ・ 定性的な評価ということについて、できるだけ可視化してほしいと考える。
- ・ 言葉よりも、絵や画像、動画など、今は3次元でいろいろな形で見せることができ、それによっていろいろな気付きがあり、市民等にとっても理解しやすいので、そういった工夫をしてほしい。
- ・ 定量的な評価については、大学連携など、ぜひ研究ベースで行っていただきたい。
- ・ コロナの影響を消すのはテクニックが必要かもしれないが、いくつかの方法論は想定でき、学術的に検証した結果を対外的に示していく必要がある。
- ・ 岸井委員のご指摘にあるように、LRTのない時期はあと1年しかなく、これを逃し従前の状態がわからなくなると、きちんと評価できなくなる可能性があるため、LRTのためだけというのではなく、まちづくり・都市がどのように変わっていくのかきちんと把握をしていただいて、本来の「NCC」、コンパクトなまちづくりをするというところで、どのように変わるのか総合的な視点でチェックをしていただく、そのために必要な調査は、次年度に検討のうえ、行っていただくということが必要だと考える。

### 【岸井委員】

- ・ 整備効果の評価というわけではないが、今日示していただいた効果を順番に評価していくのに少し時間がかかると思う一方、LRTが走った時に、リアルタイムで利用者からの要望・意見等を把握していくことが大事だと思う。
- ・ 例えば、「SNS」はリアルタイムで反応を把握するためのひとつの方法であると考え。
- ・ 時間をかけて、しっかりと調査する方法もちろんあるが、すぐに直せる部分は直す、いいと言ってもらえる部分は伸ばすということを行っていくことによって、さらにLRTを利用していただけるようになるので、リアルタイムで評価できるやり方を検討していただくとよい。
- ・ それはLRT自身の改善に繋がるという点において、必要だと思う。

### 【事務局】

- ・ 市の協働広報という形で、ツイッターなどを行っている。さらには宇都宮ライトレール株式会社においても、同様に取り組んでおり、かなりのフォロー数が出ているのが現状である。
- ・ 「SNS」などにおけるご意見をどれくらい拾っていけるかというのも、これからよりいいものを造っていく、運営しながら変えていくためには必要だと思うので、そういったご意見をキャッチする努力をしていきたいと考えている。

**【委員長】**

- ・ 宇都宮市は、「SSC（スーパースマートシティ）」という新しいアイデアも出されており、情報通信技術を使った、様々な取組もこれから進んでいくものと思っている。
- ・ その他、ご意見や補足等はよろしいか。

**【各委員，了承】**

**4 その他**

**【委員長】**

- ・ 事務局から連絡事項等があればお願いします。

**【事務局】**

- ・ 次回の検討委員会については、後日、改めて案内させていただく。

**【委員長】**

- ・ 本日の議題はこれで全て終了だが、最後に何か皆様から意見等があればお願いします。

**【鎌田副市長】**

- ・ たくさんの有益なご指摘をいただき感謝申し上げます。
- ・ LRTについては、全線新設で整備するのは日本で初めてであり、そういった効果については様々な方々に注目していただいていると思う。
- ・ いただいたご指摘を踏まえて、開業前の調査などを行っていくことに加え、経年的な変化の把握が重要であると思うので、そういった取組を進めていきたい。

**【古谷副町長】**

- ・ 芳賀町は、県内でおそらく唯一であるが、「社会増（転入＞転出）」がしばらく続いており、その原因も、あるいはLRTの効果というものも反映されていると感じている。
- ・ 併せて、芳賀町は工業団地もあるが、農業のまちということで、住宅地の確保が難しい状況であるが、県立高校跡地を町が取得し124区画の宅地を分譲したところであり、この分譲を進めていく上で、少子化の時代でもあるので、完売は難しいと思っていたが、あっという間に完売したところであり、これもやはりLRTが整備されることに対する期待であるとも感じている。
- ・ 現在、LRTの整備を、鋭意、進めているが、今後も着実に進めていきたいと考えており、皆様からのご支援を引き続きお願いします。

**【事務局】**

- ・ 以上で，本日の会議を終了する。

以上